災害ボランティアステーションの設置

Established station for disaster volunteer in Wakayama University

宮定 章[1]，西川 一弘[2]，南出 考[2]

[1]災害科学・レジリエンス共創センター，[2]紀伊半島価値共創基幹

1. プロジェクトの背景

和歌山大学では，2004年から大学の知的資源を最大限に活用し，自治体と連携しながら地域防災力の向上を推進する和歌山大学防災研究教育プロジェクトを立ち上げた。その後変遷をしながら，2016年「災害科学教育研究センター」として，防災まちづくり・防災地域づくりの提案と地域との協働作業，防災プログラムの開発と実施，防災のための知識・知恵や情報発信等を行い，防災教育に力を入れてきた。本年2020年度から，紀伊半島価値共創基幹のもとに，災害科学・レジリエンス共創センターとして改組した。パイロットプロジェクトの柱の一つに「防災・減災・復興の担い手づくり」を位置づけ，これまでの自治体や地域との連携や，防災による知見を活かし，担い手づくりを強化していくことにした。

特に，本年度2020年8月には，和歌山県社会福祉協議会から価値共創研究員として，南出考氏を迎えた。南出氏は2008年に常設の災害ボランティアセンター設置に尽力をされてこられた。本災害ボランティアステーションの設置に指導いただいている。

本プロジェクトは実施にあたり，教員だけでなく，災害支援に詳しい職員とともに取り組んでいる。

2. プロジェクトの目的

「防災・減災・復興の担い手づくり」では，これまで和歌山大学の研究・教育の知見を活かして，教育機関として，担い手づくりを行い，地域貢献をすることを目的としている。

その一つとして，災害ボランティアステーションの設置が検討され，2011年3月11日14:46に発生した東北地方太平洋沖地震に起因する東日本大震災からちょうど10年となる2021年3月11日に，和歌山大学災害ボランティアステーション（愛称：むすぼら）を開設した。

本ステーションは，下記の2点を目的として，災害科学・レジリエンス共創センター内に設置した災害ボランティア部会が運営していく。

（ア）多発する災害に対して決して他人事はなく「自分ゴト」として捉えるとともに，災害フィールドに関わることを通じて，災害時の危機管理能力・対応力の向上を目指す。

（イ）大規模災害が発生した場合，災害ボランティアの育成・諸活動を通じて，当該被災地域の復旧・復興に貢献する。

（災害科学・レジリエンス共創センター災害ボランティア部会要項より引用）

3. プロジェクトの活動内容

活動は，設立に際し準備の催しや，募集パンフレットやチラシづくりを行った。

図1　むすぼら設立集合写真（2021年3月11日）

3.1 むすぼらパンフレット

愛称のむすぼらは，「結ぶ」と「ボランティア」の文字をとり，最後の「ら」は，和歌弁で勧誘の助動詞であり，「結びましょう」と，一緒にボランティ

アしましょうの意味を持ち，防災に関心を持つ仲間を増やそうとしている。そして，地域に育まれ，地域のお役に立ち，地域に笑顔を増やす人づくりを宣言している。

そこで，組織の説明とメンバー募集を行うに際し，パンフレット作成を行った。下記のような内容でメンバー募集している。

（ア）活動理念

日頃から災害を「自分ゴト」と捉える，現場で学ぶ，被災者に関わる，地元のピンチに立ち上がることとしている。

（イ）募集の対象

和歌山大学の学生と教職員や構成員としている。いざという時に大切な人を守りたい，人のために何かしたい，助け合える仲間を見つけたい，大災害で生き残りたい，そもそもボランティアとは？などと少しでも気になったら，問い合わせてくださいと募集している。

（ウ）メンバーができること

メンバーに登録すると，むすぼらからの情報が届いたり，メンバーの「やりたい」「なりたい」を聞き，メンバーのアイデアや行動力で，楽しいイベントや有意義な企画を形にしていくことができる。

平常時には，企画調整力を磨こう，遠隔地発災時には，被災地への想像力を高め合おう，地元発災時には，寄り添い力を上げようと，様々な災害ボランティアに関わる活動のキーワードも紹介されている。

活動の状況が掲載されるホームページ・Twitterや，メンバー登録フォームを記載している[1]。

3.2 防災カードゲーム体験会（キックオフミーティング第1弾）

これから災害ボランティアステーションに関わりを持つ可能性のある学生から，災害ボランティアへの印象，興味，心配など色々な意見を聞くために，2020年10月16日に実施された。学生8名（4名×2回）が参加した。

プログラムは，①和大のこれまでの災害ボランティアスライドショー，②防災カードゲーム「このつぎ何がおこるかな？」，③ワーク「むすぼらで何した

図2　むすぼらパンフレット

い？」被災地のニーズに対して自分ができる（したい）ことを考えるワークを行った。

学生からは，『防災カードゲームに興味があったので来てみた』『過去の紀伊半島大水害の時，ボランティアバス参加希望が78名もいたとは驚いた』『昨年のボランティアバス運行があったことを知らなかった』『教員を目指しているので，子どもへの防災教育について参考にしたい』『串本が好きで，串本町の公務員になりたいので防災に興味がある』と，様々な気づきがあったこと，災害ボランティアに関わることへの関心が示された。

図3　防災カードゲーム体験

3.3 防災食見学会（キックオフミーティング第2弾）

災害直後に困る問題の中に，食があります。少しでも困らないために，食をテーマに，体験し，備えの知識をつけるために企画した。体験会を予定してたが，12月15日に新型コロナウィルス感染拡大を防止する学生団体の課外活動禁止期間延長が発令された。ただ，コロナ禍の状況でも，災害はいつ発生するかわからないため，感染症対策をした上で，体験会から見学会にすることで，学生が昼休み時間に通る場所（和歌山大学シンボルゾーン藤棚前）で，12月18日の12:00～13:30に実施した。

内容としては，①ポリ袋クッキング，②段ボールでピザ窯つくり，③アルファ米　アレンジレシピ，④着火方法，⑤竹のお箸づくり，⑥発電機の見学会を行い20名が参加した。

図4　ポリ袋クッキング

3.4 オンライン・セミナー（キックオフミーティング第3弾）

東日本大震災から10年をむかえた2020年度，過去の災害経験に学び，担い手づくり，大学の防災力強化を目的に，東日本大震災で最大級の被災地となった石巻において，大学が取組んだ対応を，石巻専修大学の当時の学長であられた坂田隆氏にご講演いただき学んだ。講演内容は，①学生・教職員との安否確認の実態，②外部組織への施設の提供について，③災害ボランティアセンターの学内設置について，④学生・大学の被災地への貢献に向けて，⑤大学のカリキュラムの震災前後の変化，⑥被災以後に取り組んだ防災力強化について等である。

1月27日14:00～16:00に実施し，和歌山大学側からは学生1名を含む7名で，zoom視聴は，高等教育機関コンソーシアム和歌山の関連者も含む24名にのぼった。和歌山大学全学FD・SD研修に位置付けられた。

図5　オンライン・セミナー会場

3.5 被災地へアシスト瓦づくり（むすぼら発足）

コロナ禍の中開催した3月11日のむすぼら発足時には，むすぼらの趣旨である被災地（2月13日に福島県沖地震が発生）への想像力を高めようと活動した。

図6　アシスト瓦づくり説明の様子

福島県新地町で活動する「災害救援レスキューアシスト」が，被災家屋の屋根瓦応急措置に活用する段ボール瓦（アシスト瓦）[2] を募集しており，段ボール瓦を製作した。学生・教職員など20名が参加した。多くの家屋の屋根瓦がずれたり崩落したりする被害が発生し，業者による修復が追い付いていない状況で，雨漏りでカビが発生している家など，早急な対策が必要になっていることを説明し，被災地へ想いを馳せながらメッセージを書き込んだ段ボール瓦が51枚仕上がり，福島県新地町へ送った。

図7　被災地へのメッセージを書いたアシスト瓦

4. プロジェクトの成果

本年度は，コロナ禍で困難ではあったが，和歌山大学災害ボランティアステーションむすぼらを設立し，企画や5つの催しを実施することができた。

感染症対策をしながら，企画をし，変更に悩まされたが，スタッフ一同前に進められるよう準備をしてきた。参加したメンバーも，度々，変更が起こる中，また急な連絡になる中，興味を持って参加してくれたことに，災害ボランティアや命を守ることへの興味が深いことが感じられた。

災害時は，想定外のことが多く起こるので，このコロナ禍の状態も，訓練だと思い取り組んでいくことが求められている。

参加メンバーからは，「とりあえず被災地を見てみたい。被災地を見てから考えられることがあると思う」「教員を目指しているので，子どもへの防災教育について参考にしたい」「留学生です。日本で一度でも災害ボランティアを経験し母国に帰って生かしたい」という積極的に関わりたいという意見が聞かれ，担い手づくりの大切さが感じられた。

来年度も，感染症対策で様々な困難はあるが，大学内での活動に加え，地域に育まれ，地域のお役に立ち，地域に笑顔を増やす人づくりを目指して，「防災・減災・復興の担い手づくり」を行っていく。

図8　ミーティングで話し合われたやりたいこと

注

[1] 和歌山大学災害ボランティアステーションむすぼら
http://www.wakayama-u.ac.jp/disaster/outline/musubora/

[2] アシスト瓦作り方（レスキューアシスト）
https://rescue-assist.net/wp/wp-content/uploads/2021/02/5ff5f77c35ef2728040b30b058651665.pdf